



活力ある秋田 Vol. 67

豊かな自然と共に

[秋田市観光クチコミ大使]

太平洋汽船(株) 代表取締役社長 檀岡孝武氏

秋田市土崎に生まれ高校卒業まで秋田で育ちました。

中学までは野球少年で全県中学大会ベスト4まで進みましたが頂点には至らず、高校ではラグビーを始め三年時には素質のある下級生に恵まれ岩手国体で優勝しましたが、全国大会花園はこれまたベスト4止まりでした。高校時代のラグビー部の先輩には三浦廣巳さん(商工会議所会頭)や進藤孝生さん(新日鉄住金社長)が居られ、特に三浦さんには一年時にラグビーの指導を受け大変にお世話になりました。

大学でもラグビーは続けましたが公式戦には数試合しか出場できず、大成はしませんでした。只ラグビーは自己犠牲心が必要なスポーツで、「花になるより根になろう」「One for all All for one」と云ったフレーズがあるように、特にフォワードは自らを犠牲に陰でチームを支える気持ちが必要で、自分自身卒業後、社会人になってからラグビー精神は大いに役立ったと思っています。

大学卒業後は、海外勤務を希望し日本郵船に入社。郵船時代は二度の米国駐在を経験し、ニューヨークに7年シカゴには1年、計8年米国生活をエンジョイしました。

郵船時代の上司に徳川恒孝さん(徳川宗家18代当主)が居られ2度ほど秋田で講演の為ご一緒しました。徳川さんにとって初めての秋田訪問だったので、帰途車で秋田市から男鹿半島、角館、田沢湖、乳頭温泉と廻り、普段の喧騒から離れたこともあり秋田の景色に触れ大変に気に入ったようで「秋田は豊かな自然があっていい処だね」と、最近お会いしても「また一緒に秋田に行こう」と声を掛けてくれます。

私自身の会社生活は、海上コンテナ輸送の商売が長く、一時東京船舶にも籍を置き、韓国一秋田

一苦小牧を結ぶコンテナサービスを始め、北海道と秋田寄港なので名称を「どさんこまちサービス」としましたが採算が厳しく3年も持たず残念ながら休止してしまいました。現在は大型バルカーを運航している太平洋汽船で、火力発電所向け燃料炭などの輸送に従事し、我が社の運航船が能代港に時折入港しております。



船の進水式(船の誕生)

仕事上、企業のトップの方との宴席、ゴルフなど供にする機会が多く、常に「自分は秋田出身」であ

ることを前面に出し宣伝はしているのですが、秋田のイメージは?と聞くと、まずは「秋田美人」ときまますが、そのあとが続かない。更には東北6県の内秋田だけは一度も足を運んだことが無い、と言う方も多いのには驚きます。

まずは秋田の素晴らしい自然と魅力、おいしい食材と温泉を堪能して頂く為には、秋田に足を運び、素晴らしさを多くの人に知って貰う事でしょう。

日本一の人口減県では、企業誘致もままならず、自然を売り物にし、観光、農業立県として誇れる秋田を目指しては如何でしょうか。

東京で仕事をしていて少しでも故郷への恩返しので多くの方々に口コミで秋田の魅力を伝え、足を運んで貰えるよう更に尽力して参りたいと思っています。

■略歴

1951年 秋田市生まれ
秋田高校 卒業
慶応義塾大学法学部 卒業
1975年 日本郵船 入社
2003年 経営委員
2007年 経営委員兼務で東京船舶(株)代表取締役社長
2011年 太平洋汽船(株) 代表取締役社長